

令和七年度

首都圏入学試験問題

国語

令和七年一月七日（火）

「はじめ」の合図があるまで、この問題用紙の中を開いてはいけません。

注意事項

- 一、問題用紙は1ページから14ページまでです。
- 二、かんとく者の指示にしたがい、必要事を記入しなさい。
- 三、解答は解答用紙にはつきりと記入し、解答らんからはみ出してはいけません。
- 四、問題の内容についての質問には、いつさい応じません。それ以外のことがらについてたずねたいことがあれば、手をあげてかんとく者に聞きなさい。
- 五、かんとく者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

一

次の各文の――部について、1～5のカタカナは漢字に直し、6～10は読み方をひらがなで書きなさい。

- 1 フクザツな仕組み。
- 2 さらにケントウを要する。
- 3 とてもイガイな行動に出た。
- 4 算数のセイセキが上がった。
- 5 欠員をオギナう。
- 6 体裁が悪い。
- 7 額に手を当てる。
- 8 遠くから汽笛が聞こえる。
- 9 大仏を建立する。
- 10 両者の差が著しい。

二

二つの文中の空欄①②に、対義の漢字を当てはめて意味の通る文をつくりなさい。

- 1 戦争の①大を防ぐ。
事業を②小する。
- 2 協力して困①を乗り越える。
容②に解ける問題だ。
- 3 家計の①納を帳簿に記す。
単刀直②に申し上げる。
- 4 大陸を①断する。
その車は道路からそれで②転した。
- 5 お寺の境①を抜ける。
②科手術を受ける。

三

次の文には日本語の誤りがあります。その誤りの箇所に―を引き、正しいことばに直しなさい。

例

子どもを危険な場所へ行かせるのは危ない。

正しいことば ↓ 行かせる

- 1 先生が私たちの教室に参りました。
 - 2 おいしいごはんを食べれることは幸せなことです。
 - 3 彼とは長い付き合いで、私にとっては気の置ける存在だ。
 - 4 たとえみんなが反対したら、僕はやる。
-

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、※にはあとに「注」があります。

知識をただ覚えておくだけでは、教養・知性にはなりません。頭のどこかに間借りしているだけです。それをその人なりに血肉化していくには、①「考える」という作業が不可欠です。

「考える」というのは、新しい意味、あるいは因果関係を見つけていくことです。一見するとつながりがないように思えることも、それらを別の文脈や論理の世界に持ち出して丁寧に消化していくと、少しずつつながっていることが見えてくるから不思議です。

しばしば「真理はひとつ」だと言われます。エネルギーはさまざまなかたちで現象を生み出しているけれども、これはすべてある大きな法則に基づいている。私たちの心の中で起こっていることも、外で起こっていることも、すべてつながっているかもしれない、ということなのです。

お父さんとお母さんがケンカをしているのも、学校の授業が面白くないのも、試合でいい成績があげられないのも、大好きなあの子が僕のほうを見てくれないのも、もしかしたら

すべてつながっているのかもしれない。そういうことが見えてきたら、ちよつと面白いと思いませんか？

そういうことが少しでも感じられると、②ものの見方も違つたものになるでしょう。これこそが、教養を身につけるということのもうひとつの意味で、それはまた、学ぶことの意味でもあるわけです。

登山で、道なき道を登っていったら、自分のいる場所がわからなくなります。ところが、あるところまで来ると、急に見晴らしがよいところに出る。そうすると、「うわあ、こんなきれいなところがあつたのか」と感動すると同時に、自分が今いるところが、別のかたちで見えてくることがあります。上に行けば行くほど、周りの山や空、遠くにある滝などが見えてきます。

学ぶというのは、山を少しずつ、少しずつ登っているようなものです。登るにつれて、見える世界が少しずつ大きくなり、広がっていきます。そして、自分が今いる場所が、徐々にわかってきます。

上まで行けばそういうことがわかるけれども、途中で周りを見ても木や草しか見えなくて、自分がどこにいるかわからないものです。これは皆さんが、学んでいる状況と似ていま

す。

学ぶにつれて、いろいろなことがつながってきて、ものごとを※俯瞰^{ふかん}して見られるようになって、自分の立ち位置、さらには自分が生きている世界が見えてきます。③学ぶということは、山に登ることと同じです。

いろいろな知識がつながってくると、世の中がよく見えてきます。それまで自分が経験的に知っていたことと、新しく教えてもらったことがつながって、もうひとつ高いレベルで意味を理解できるようになるからです。

そうすると、世界の見え方が変わります。これが、学ぶことの【ア】です。

今までまったく文字が読めなくて、五〇歳^{さい}になって、初めて文字を勉強し始めた女性がいました。彼女^{かの}は、「文字を勉強してから、夕日^{ゆじつ}ってこんなにきれいだったのか、と思えるようになった」と言います。

文字を読めるようになると、④知識への水路が広がります。いろいろなことを理解し、それらの知識がつながってきたことよって、夕日の美しさに改めて気づいた、ということです。つまり、人間の※美意識は、知識とその知識への水路を少しでも身につけた自分という存在の喜びにつながっているとい

うことです。

また別の、二〇代で初めて文字を勉強した若者は、「今まで平気で蹴^けとばしていた木の根っこを、蹴とばせなくなった」と言っています。

やはり、文字を学び始めたことで、いろいろなものの命に気づいたのでしょうか。知識への水路を身につけていると、自分の周りのものを粗末^{そまつ}にできなくなるようなのです。

学ぶことよって自分たちを支えてくれているものが見えてきて、自分の命とそれらがつながっていることに気づくようになった。そうすると、世界の見え方は、まったく変わってしまうのです。そういうことがわかると、おそらく学ぶことはどんどん面白くなっていくはずです。

(汐見稔幸『人生を豊かにする学び方』)

ちくまプリマー新書より

〔注〕

俯瞰^{ふかん}……高い所から見下ろしながらめること。広い視野で物事を見たり考えたりすること。

美意識……美しさを受容したり創造したりするときの心の働き。

問1 —部①とありますが、どのようなことですか。わかりやすく説明しなさい。

問2 —部②とありますが、その理由をわかりやすく説明しなさい。

問3 —部③とありますが、その共通点について説明した次の文の「ア」「イ」にあてはまる語句をあとの1～4からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

「山を登ること」と「学ぶこと」は、対象を「ア」な視点でとらえることで、物事のつながりが見えてくるという点で共通している。

登山では、自分の居場所を見失うこともあるが、見晴らしのいい所まで来ると、自分の居場所が別の形で見えてくることもある。学ぶことでも同様に、一見、学んでいる事がらのつながりが見えなくても、「イ」に真理の理解や新発見に向かっているのである。

- | | |
|-------|-------|
| 1 巨視的 | 2 微視的 |
| 3 合理的 | 4 段階的 |

問4 【ア】にあてはまる言葉として最も適当なものを次のの中から選び、番号で答えなさい。

- | | |
|-------|-------|
| 1 肝要 | 2 義務 |
| 3 必然性 | 4 醍醐味 |

問5 —部④とありますが、それはどういうことですか。

「くこと」につながるように本文から六十五字以内でぬき出し、はじめと終わりの四字をそれぞれ答えなさい。

問6 筆者は、知識をただ覚えるのではなく、知識のつながりを意識して教養を深めることで「世の中がよく見えてきます。」と述べていますが、具体的にはどのようなことですか。分かりやすく述べた一文を句読点も含めて六十字以内でぬき出しなさい。なお、句読点も字数に含まれます。

五

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、※にはあとに「注」があります。

週末のセブンス・クライシスのライブに行く途中のことだった。

遠藤との初デート、会場に向かう道のり。広瀬先輩のことは、もう話題に出なかった。

姉とはあれきり、何も話していなかった。朝、どこかに出かける風だったけど、お互いに言葉は交わさず、別々の時間帯に家を出た。一人で図書館にでも行くのかと思っていたら、会場のある駅を出てすぐ、近場のデパートの前で三つ編み軍団が勢ぞろいしているのが見えた。中に姉の姿もあるのを見つけ、目を瞬く。遠く離れた場所から不自然にならない程度に観察する。険悪なムードはなかった。ケンカ前と同じように、笑って語り合っている。肩から力が抜ける。安心して、今にも家にとって返して、母に報告したい※衝動に駆られる。お母さん、お姉ちゃん、仲直りしたみたい。

そのときだった。

「ああいうグループって、何が楽しくて生きてるんだろうな」
瞬きするのも、息を吸うのも、一瞬忘れた。首が石のよ

うに固まって、すぐには声の方向を見ることができなかった。遠藤が続ける。

「山下の姉ちゃんさ、少しはお前のこと見習えばいいのにな。勉強ばっかじゃなくて、世の中、もっと楽しいことあるし。だいたいさ、部活、アニメイラスト部なんだって？」

お姉ちゃんが笑いながら、楽しそうに友達とデパートの中に消えていく。休みの日だって普段と変わらない眼鏡とお下げ姿。だけど、提げた鞆に大きなハート形のキーホルダーをつけていた。普段、学校にはつけていけない。休みだから、友達と一緒にだから、オシャレしてるんだ。思ったら、胸がぎゅーっとなった。

私の姉でなければ、遠藤の視線は、あの一団を簡単にスルーしたはずだ。目を留めたのは、私のせいだ。姉たちが楽しそうなのが、見ていてつらくなる。軽い声を、もう返せなかった。「いい高校入ったって、大学入ったって、あとは普通のサラリーマンになって終わりだろ？——だいたいさ、中学のうちに運動部入ってなきゃ絶対損だって。先輩との上下関係とか人間関係とか、そういうキホンがごっそり抜けたまますぐ受験ってどうなの？ それと」

「遠藤、ごめん！」

大声が出ていた。驚いたように口をつぐんだ遠藤が目をまん丸にしてこつちを見た。

女の子みたいにサラサラな髪した芸能人より、現実のスポーツ刈り男子と付き合う。それが現実の幸せ。遠藤、かっこいい。

わかってるけど、全部忘れた。来る途中、何度も鞆の中にきちんと入ってるかチェックしたチケット。袋のまま、取り出して遠藤の胸に押しつける。

①「ごめん、一人で行って。私、行けない」

「え？ おい」

「部活、サボらしてごめん。だけど、無理」

遠藤の顔色が変わったことがわかったけど、隣にいたくなかった。タカユキの歌声、バースデイイベント、秤にかけ。でも、遠藤の横にこのまま平然と座れるとは思わなかった。

駅の方角まで、夢中で走った。どこに行くのかわかんないけど、進むまま足を前に出し続けるしかなかった。

ごめん、と歯を食いしばる。

友達と楽しそうに話してた由紀枝。

ごめん。巻き込んでごめん。

暗い部屋で膝を抱いたままでいると、電気をつけた姉が驚いたように息を呑むのが聞こえた。涸れるほど涙を流したはずなのに、人の存在を意識したら、甘えるようにまた目の奥が熱くゆるむ。聞いて欲しくて、声が上がリそうになる。「どうしたの。今日、セブクラのライブだったんでしょ？」

親しげに略して呼ばないで欲しい。セブンス・クライシス。バースデイイベント。タカユキ。それが本当に観たかったかどうかなんて、問題じゃなかった。こんなに楽しみにしていたはずなのに、それを放棄した自分のことがかわいそうで、私は帰ってから、いつまでも泣くことができた。

「――彼氏と別れた」

掠れた声で言う。姉が※啞然としたように立ち尽くしている。それがわかって、私はさらに顔を前に倒して※嗚咽する。

どうしていいかわからないように、姉が私を見ていた。しばらくして、姉が私の横に座り込む気配があった。背中に腕に、触れ合うことに馴れているような、そんな姉妹なら良かったけど、不幸にして私たちは仲がとて悪かった。躊躇うような沈黙と距離感を経て、姉がポツリと言った。

「遠藤くん、かっこいい子だったのにね」

②私は息を呑む。声を止めた。

タカユキと全然似てない、と指摘された日の怒り。遠藤が今日、姉に目を留めて告げた言葉。一気に流れて止まらなくなる。うーつと長い息と声とが出た。

③ かつこよくねえよ。お姉ちゃん、あいつにバカにされたんだよ。そんな風に、言わないで。遠藤くん、なんて、気安く名前呼ぶな。

自分を哀れむこと、その限界の臨界点が急に突き上げた。わあっと声を上げて、私は叫んだ。衝動的に失ってしまったものの大きさを、あんなに楽しかった遠藤との最初の帰り道のときめきを思い出したら、ショックすぎて泣いた。獣のような声が出た。ぎやああ、ぎやああ、ぎやああ。

お姉ちゃん、私、惜しいことをした。やつちやった。

遠藤と戻りたいとは思わないし、何が一番嫌なのかもわからない。ハイになったように声を上げるのに夢中になって、両手で顔を覆ったまま天井を振り仰ぐ。しょっぱい涙と鼻水が口に垂れるのと、姉が私の手を触るのが同時だった。困惑したような、もどかしい触り方。もっとうまくやって抱きしめたりして、距離感つめてよ。

相変わらず、結局何にも処世術わかってない。

教会のバージンロードを歩く姉。

ベールの下顔は、年を取ってますます私と似ていた。もともと、私が意地になって守ってきた拠り所は薄っぺらい化粧の膜に代表されるようなおしやれ全般だったのだから、姉が年相応に化粧を覚えたこの頃は、確かにもうあまり意味がなくなっていた。

姉が顔を上げ、父から花婿にその手が引き渡される。生真面目な様子で頷いて花嫁の手を取る新郎は、記憶違いでなければ、私が昔熱を上げてたバンドのボーカルと少し似ている。他の誰も気づかないかもしれないけど、私はそう思うし、姉だつてきつと気づいたはずだ。鼻筋が通つて、髪がサラサラ。眼鏡かけてるけど、奥の切れ長の目が鋭い。

——面食い。意地っ張り。

由紀枝はやつぱり、私と似てるんだと思う。

義兄になるこの人の方が、学生時代から姉に夢中だったのだというのだから驚きだ。【ア】、悪い気はしなかった。彼が私を最初に見た時、「本当に由紀枝ちゃんにそっくり！」と感嘆の声を上げて、私は当たり前でしよう、と満足した。

※賛美歌を歌い、指輪を交換し、誓いのキス。退場した姉が、チャペルの外でブーケトスをする時、彼女が自分の友達を差

し置いて、妹の姿を探すのがわかった。遠慮して新郎新婦を遠巻きに見ていた私に向け、声が飛んでくる。

「亜季、取って！」

姉の近くに、彼女の中学時代の同級生がそろって楽しそうに並んでいた。中学生女子のケンカや仲間外れは流行り病のようなものだ。かかっていたことすら、いずれ忘れてしまうような。

『亜季へ。』

中学校時代の私、山下由紀枝にとって、唯一の自慢は、自分にかわいくて人気者の妹がいる、ということでした。友達も少なく、男の子とも無縁な私の憧れを全部かわりに生きている亜季は、④当時の私がすりついていた価値のすべてでした。いつまでも、その頃のかっこよさを持った亜季でいてください。』

自慢話ばかりして周囲に煙たがられた姉の、私は妹。

高校の頃、ふっと気づいた。

ビジュアル系バンド熱がだいぶ落ち着いてからだだった。高校のクラスメートに、私は自分がマニアックって目で見られ

てたことを知った。興味のない人間からしてみると、曲を聴き込みチケット獲得に闘志を燃やす私は、随分オタクっぽかったと。それを聞き、ショックを受けたものだ。

だけど、姉からの手紙を読んで、今また思った。何が楽しくて生きているのか。何を持っているのか。⑤私も姉も、他人から見たら両方とも大差なくオタクだった。

あれから、姉は大方の予想通り順調に県下一の高校に受かり、さらにはそこから名門と呼ばれる大学に進んだ。私は中途半端に勉強したり、しなかったり。名門どころか、合コンでの肩書きとしても箔がつかないような貧相な大学にかろうじて受かった。結婚の予定も今のところないけど、モテないわけでも、日々が楽しくないわけでもない。

「亜季ちゃん、こっち」

微笑みながら、姉の中学時代の友人たちが、横の場所を空けてくれる。当たり前の話だが、今はもう誰も三つ編みは結んでいない。

「二次会、来てね」

幹事だという一人が言う。

「亜季ちゃんみたいになかわいい子が来てくれると、新郎側もきっと喜ぶよー」

私は笑って「マジですか」と軽口を返す。

姉が真っ白いバラのブーケを、後ろ向きに投げる。きやあ
つと声が上がリ、空気がざわつく。私も背伸びをして、舞い
上がった花に向けて手を広げる。身内が取るのは※^{ひんしゆく} 輦蹙^{ひんしゆく} かも
しれないけど、姉はきつと気にしない。

由紀枝のかっこいい妹でいることは、私の役目であり、姉
への祝福。悪くない、と胸を張る。

(辻村深月『家族シアター』講談社より)

〔注〕

衝動に駆られる……理屈^{くつ} 抜き^ぬ の欲求を強く感^{かん} じること。

啞然^{あぜん} ……あっけにとられるさま。

嗚咽^{おうえつ} ……声をつまらせて泣くこと。

賛美歌 ……キリスト教会で、神を賛美し、信仰を
励^{はげ} ます歌。

箔^{はく} がつかない ……値打ちが高くない。貫禄^{かんろく} がない。
輦蹙^{ひんしゆく} ……不快に感じて顔をしかめること。

問1 — 部①とあるが、亜季がそう言ったのはなぜか。その
理由を答えなさい。

問2 — 部②の説明として適切なものを次の中から選び、
番号で答えなさい。

- 1 亜季は、別れた彼氏^{かれ} を姉がほめたことで、自らの選^た 択^{たく} を否定されたと感じ、身勝手な姉に怒^{いか} りを感じた。
- 2 亜季は、彼氏と別れた寂^{さび} しさを懸^{けん} 命^{めい} にこらえていたが、姉の優しい言葉に我慢^{まん} の限界^{げんがい} を迎^{むか} え、涙^{なみだ} を流した。
- 3 亜季は、仲がよいとは言えない姉の自分を思いやった言葉が、見当^{あた} 違いな内容であることに驚^{おどろ} き、息を止めた。
- 4 亜季は、長い沈黙^{ちんもく} を破った姉の発言が、自分が求める言葉でなかったことに驚き、姉妹の関係性の未来に失望した。

問3 —部③の表現効果の説明として適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 亜季の気持ちを「」をつけずに乱暴な言葉で表現することにより、自分を哀れむ姉に対する怒りの強さを強調している。

2 遠藤くんの名前を気軽に出した姉への怒りを心のうちを表した言葉として表現することで、陰では姉を心底嫌う亜季の心情を強調している。

3 姉に語りかけるような口調で表現することで、現実には言葉にできない姉への不満を読者にも伝わるようにしている。

4 あえて乱暴な言葉づかいで表現することで、姉に本音を言えない亜季の辛さや葛藤を読者に印象づけている。

問4 —部④とここまでの本文から、「姉」は「亜季」にどのような感情をもっていることがわかりましたか。説明しなさい。

問5 【ア】にあてはまるものとして最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 そして 2 だけど
3 つまり 4 ゆえに

問6 —部⑤とありますが、一見異なる姉妹はオタクであること以外にどのような点で共通点があったか説明しなさい。

問7 本文の内容や表現について説明したものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

1 亜季は、クラスの人気者として華やかな人間関係を築き、地味でマニアックな姉とは対照的に器用に生きる人物として描かれている。

2 姉は、学生時代はオタクと見られていたが、結婚式を挙げる頃には華やかな見た目と理想の結婚相手を得て、姉妹の立場を逆転させた。

3 平易な言葉の会話や心のうちを表した言葉、手紙の文面を効果的に用いることで、登場人物たちの心情変化を読者にわかりやく伝えている。

4 亜季と姉の会話では、若者言葉や砕けた言語表現を多く用いることで、二人の関係性が急速に縮まる様子を読者に印象づけている。

六

次の1〜5の和歌・俳句の鑑賞文として最も適したものを、あとのA〜Eからそれぞれ選んで記号で答えなさい。

- 1 からころも 裾すそに取りつき 泣なく子こらを
置おきてそ来きぬや 母ははなしにして
- 2 山里やまさとは 冬ふゆぞ寂さびしさ まさりける
人目ひとめも草くさも かれぬと思おもへば
- 3 見渡みわたせば 花はなも紅葉もみじも なかりけり
浦うらのとまやの 秋あきの夕暮ゆうぐれ
- 4 障子しょうじ開あけよ 上野うえのの雪ゆきを 一ひと目見みん
しばらくは 花はなの上うへなる 月夜つきよかな

A 色彩さいしき豊かな自然をイメージさせてからその存在を打ち消すことで、海辺の静かな景色の趣おもむきを詠よんだ作品。「わび・さび」を表現した『新古今和歌集』の和歌。

B 九州地方の警護を担当する「防人」が、家族との別れの場面を思い出して子どもを思う気持ちを表現した作品。現存最古の和歌集『万葉集』の和歌。

C 人里はな離れた場所で暮らす中で感じた冬の寂さびしさや心細さを、「掛詞かけことば」という修辞を用いて表現した作品。紀貫之が序文を記した『古今和歌集』の和歌。

D 最も華はなやかな姿ではあり続けない二つのものが夜空を彩いろどるはかない美しさを詠んだ作品。「おくの細道」を記し江戸時代に活躍した松尾芭蕉ばしきうの俳句。

E 病床しやうぶに伏せる作者が、外の寒気に触ふれてしまったとしても冬の美しい景色を見たい気持ちを表現した作品。「歌よみに与あたふる書」で知られる正岡子規の俳句。

